

組合長が児童に稲刈りを指導



JA筑紫は10月2日、春日市立大谷小学校5年生の児童に稲刈りの授業を行いました。児童の食農教育をサポートする目的で、白水組合長自ら学校へ出向き、15年以上児童へ米作りを指導しています。

白水組合長は、鎌の使い方や稲の刈り取り方を説明。児童は、鎌を手に田んぼに入り、慣れない手つきで稲を刈りました。初めて稲刈りをした児童は「とても楽しかったです。刈り取ったお米を早く食べてみたいです」と笑顔で話していました。また、大切に育てた米を無駄にしたくないという思いで、落ちた米1粒1粒大切に拾う姿が見られました。

白水組合長は「稲刈りを楽しんでもらえて良かったです。この体験を生かして、これからも農業のことを学んでほしいです」と話していました。

太宰府天満宮で「斎田収穫感謝奉告祭」



10月6日に太宰府天満宮で、「斎田収穫感謝奉告祭」が行われました。

「斎田収穫感謝奉告祭」は、斎田で実った稲穂を奉納し、神々に収穫を感謝する伝統神事です。華やかな衣装を着た天満宮の巫女が「悠久の舞」を奉納するなど、厳かな雰囲気の中執り行なわれました。例年、太宰府市内の斎田で稲刈りが行われますが、今年はいにくの悪天候の為、御本殿で神事を行いました。

この日奉納された稲穂は、5月の播種祭で種を播き、6月の御田植祭で植え付け、斎田で大切に育てられてきたものです。毎日の天神さまへの朝夕のお供えをはじめ、太宰府天満宮で行われる全ての祭典・神事に用いられます。

安全安心まちづくり 貢献認められ表彰



JA筑紫は、福岡県太宰府市で開かれた平成30年筑紫地区安全安心まちづくり推進大会で「筑紫地区安全安心まちづくり推進協議会長賞」を受賞しました。

大会は、筑紫地区安全安心まちづくり推進協議会などが主催。一人一人が地域安全運動の担い手として、犯罪などを抑止することを目的としています。県議会議員、春日警察署や筑紫野警察署、地域防犯ボランティア活動団体・事業所、JA筑紫役職員ら約500名が出席しました。協議会の楠田大蔵会長から、JAの白水組合長が表彰状を受け取りました。

児童が畑を見学



ＪＡ筑紫は、筑紫野市立筑紫東小学校の社会科見学を受け入れ、米とブロッコリーの栽培について授業を行いました。

３年生７４名が、ブロッコリーの畑や農業機械倉庫などを見学。圃場を管理する生産者の田中修一さんも講師として授業に参加し、農業機械や水路などを児童に見せながら説明しました。

児童からは、「なぜお米を作る時は水を抜くの？」、「ブロッコリーの旬はいつ？」など、次から次へと質問があがっていました。

ショウガ収穫続く



ＪＡ筑紫生姜出荷組合の組合員の畑で、１１月初旬から始まったショウガの収穫が続いています。１１月下旬までに終わる予定です。

新ショウガとして出荷する他、山の斜面に掘った横穴式天然貯蔵庫で翌年３月ごろまで貯蔵し、種ショウガとしても出荷します。種ショウガは、１７年産の２．７ｔに比べ、１８年産は約１０％増の３ｔの収量を見込んでいます。